

やまもり通信

2 vol.66

寒さも厳しくなり、冬本番。
今年の節分は124年ぶりの2月2日です！



【加子母の風景】節分には鬼めくり。鬼さんコロナも一緒に連れてって。



やまもり
yamamori

ちかくのいいもん
関西のお店 彩都やまもり
ひのきの丸太椅子&きのこ椅子

今回は皆さまに岐阜県中津川市加子母の「東濃ひのき」の丸太椅子ときのご椅子をご紹介します。

東濃ひのきは伊勢神宮の式年遷宮の御用材にも使われるほどの銘木ですが、贅沢にも原木の丸太をそのまま使ってスツールタイプの椅子にしました。すべすべの肌さわりとひのきの香り漂う一品ですが側面に4つの穴を開けることで持ちやすく移動が楽です。また、切り口が平らなので、サイドテーブルとして使う事もできます。

写真左の、きのこの形をした通称「きのこ椅子」は東濃ひのきの本体の上に地元の杉の板を載せて座りやすく、またデザイン的にも可愛らしくなっています。

お値段は丸太椅子が 4,000 円、きのこ椅子が 4,500 円となっています。

ぜひ一度座りごちを確かめに彩都やまもりのギャラリーまでお越しください。



彩都やまもり
大阪府箕面市彩都粟生南1丁目17-26 TEL:072-739-6046
営業時間:9:00~17:00 定休日:毎週火曜日

ふるさとから こんにちは
岐阜のお店 岐阜関ヶ原古戦場記念館

今から400年以上前の慶長5年（1600年）、天下分け目の戦いとして名高い関ヶ原の戦いの地に昨年10月、体験型の施設として「岐阜関ヶ原古戦場記念館」ができました。

この施設の目玉は全国を舞台とした東西陣営を俯瞰できる巨大な床面のスクリーン「グラウンドビジョン」や、両軍の激突を迫力ある映像で再現した「シアター」。そのほか戦いの発端から終結までを実物資料を交えて紹介する常設展示や戦国武将になりきって写真撮影ができる「戦国体験コーナー」など、関ヶ原の戦いを五感のすべてで味わうことができるエンタテインメント型の施設となっています。また古戦場が一望できるガラス張りの展望台やカフェレストランもご用意して皆さまのお越しをお待ちしております。

なお当面の間、入館は事前予約制といたしますのでお越しの際はお問い合わせください。



岐阜関ヶ原古戦場記念館
岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原894-55 TEL:0584-47-6070
営業時間:9:30~17:00(入館は16:30まで)
休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、12/29~1/3

OKBチョコレート
バレンタインデーの贈り物にぴったり！岐阜市を中心に展開する有名洋菓子店ル・スリジエダムールとコラボした「OKBチョコレート」は、見た目も華やかで濃厚な美味しさが口いっぱいに広がります。OKBストリートにあるOKBショップで販売されています。

【販売：大垣正和サービス 株式会社】

OKB 大垣共立銀行

彩都やまもり ひとこと日記

彩都やまもり感謝祭2020

2020年12月26日（日）に「彩都やまもり感謝祭」を開催しました。毎年大人気の門松づくりや岐阜の産直市、木工広場、ピンゴ大会などを行いました。

朝準備しているときは風がとても強く、寒さといろいろなものが飛ばされていくので、心が折れそうになりましたが、お昼にはだいぶ落ち着き、無事に開催することができました。

今年の門松づくりはコロナ対策の時短バージョンで、竹を切るころなどは省略してしまいましたが、みなさん楽しんで作業されていてできた門松を満足そうに持ちかえっていただきました。

そのほかにも、焚き火コーナーで岐阜の郷土料理いもちや五平餅などを焼いて食べたり、木工広場で東濃ひのきのかんなくずでミニしめ縄をつくらりと、スタッフたちもお客様といつも以上にたくさんお話ができたのでとても楽しかったです！中には帰りたくないといってくれた子どもちゃんもいて、スタッフとしてはこれ以上ないぐらいのうれしさでした。。。

コロナ禍でなかなか思うようにできないことばかりで様子を見ながらにはなりますが、みなさまに楽しんでいただけるようなイベントを今後も開催していきたいと考えていますので、ぜひあそびに来てくださいね！



<今月のギャラリー案内> 彩輝館ギャラリー

「岐阜 春を感じるおひなさま」を開催します。

【期間】令和3年2月3日(水)～3月15日(月)

毎年この時期彩都やまもりで展示している岐阜県各地の『変わり雛』。今年も土雛やつるし雛、まゆ雛などを岐阜県各地からお借りして、ギャラリー内を華やかに彩ります。コロナが落ち着いたらぜひ訪れてほしい岐阜のひな祭りスポットもご案内します。



《岐阜のひな祭り 豆知識『郡上八幡の福よせ雛』》

新聞を読んだり、スマホをいじったり、テニスやサッカーなどのスポーツを楽しんだり・・・普段はひな壇にじっと座って子供たちの成長を見守っているお雛様たちが、まるで人間のように生き生きと日常生活を送っている様子を表現した「福よせ雛」。

お雛様が暮らす町をコンセプトに郡上八幡の城下町のあちらこちらで様々な日常を楽しむお雛様たち。思わずにっこり笑顔になれる変わり雛は観る人に「福」を呼び寄せてくれることでしょう。



《彩都やまもり今月のイベント》

【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)

◆ 各イベント中止のお知らせ

1月号で告知しておりました2月開催予定の下記イベントは、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令を受け、中止することになりました。今後のイベント開催再開については、状況を見極めつつ、HP、facebook等でお知らせいたします。何卒ご了承下さいますようお願い致します。

- 鬼めぐり 1月30日(土)～2月3日(水)
- やまもり市 2月6日(土)～7日(日)

※最新情報は随時、彩都やまもり HP (https://yamamori.site) や facebook でご確認ください。



やまもりHP



やまもりfacebook

関係者⇨ 活動かけこい板

●土屋嶋さんお別れ会



大垣共立銀行会長で関西岐阜県人連合会会長の土屋嶋さんのお別れ会が昨年12月17日、岐阜県大垣市のホテルで開かれました。

古田肇知事や小川敏大垣市長など地元政財界をはじめ県内外から約3800人が参列、和太鼓の生演奏が流れる中、花を手向け、県の経済、産業を牽引したリーダーとの別れを惜しみました。

土屋さんは1993年に46歳で頭取に就任し、当時地銀最年少として話題になりました。「銀行はサービス業」を掲げ、手のひらだけで取引ができるATMを開発するなど常にユーザーの目線に立った全国初のサービスを次々と実現し、「これ以上どんなサービスができますか OKB大垣共立銀行」これを全面広告に載せるがくちぐせでもありました。

また県経済同友会筆頭代表幹事、県経営者協会会長、県教育委員長、大垣商工会議所会頭などの公職を歴任され、教育や文化振興などふるさとの発展に多岐にわたり寄与されました。

平成29年度からご多忙にもかかわらず、「少しでもお役に立てるなら」と関西岐阜県人連合会の会長にも就任いただき、「岐阜県の更なる発展」と「県人会と連合会の組織の拡大」を切に願われ、岐阜県と関西圏の架け橋として献身的にご尽力いただきました。

会場には土屋さんの74年間の足跡を紹介する年表や写真、愛用品などが整然と飾られるなか、「作詞家つちやたかし」として活躍された歌が流れ、参列者は改めて故人に思いをはせました。

関西岐阜県人連合会会長代行 徳田昭憲

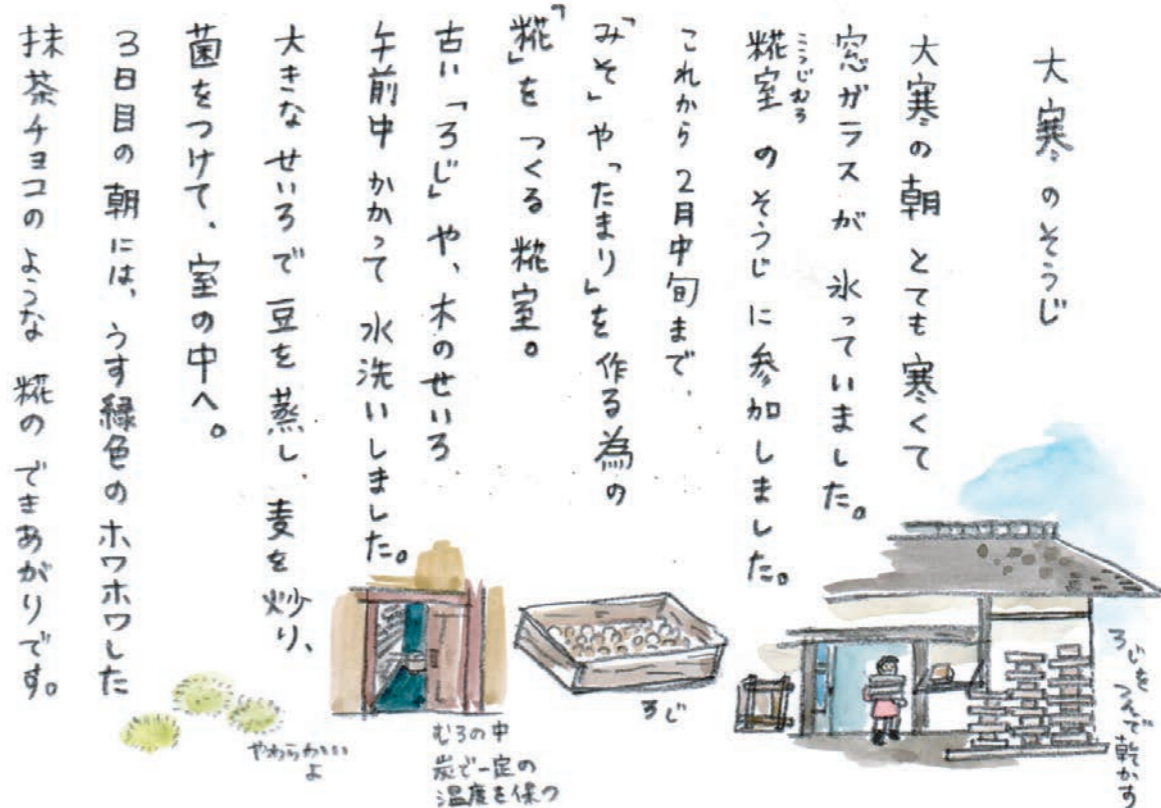
《新年会中止と合同記念式典延期のお知らせ》

新型コロナの感染が再拡大している状況を踏まえ、昨年12月号のやまもり通信で告知しておりました2月10日(水)開催予定の大阪岐阜県人会と連合会の合同新年会は、中止することになりました。

なお、同時に開催予定でした大阪岐阜県人会120周年、関西岐阜県人連合会10周年の記念式典は再度延期いたします。

今後の情勢を見据えながら、改めて日時を設定の上ご案内いたします。

本間希代子 絵描きイラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して24年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 http://febako.jp



加子母の人 山守日記 1 第59回 日記に残る加子母暮らし

道の駅加子母の近くに『内木家』があります。江戸時代に尾張藩の『御山守』を代々務めてきた家で、今も日記をはじめ三万点におよぶ古文書が残されています。

平成30年度から、徳川林政史研究所の先生方が本格的に調査し、江戸時代の森林管理のあり方や、地域に暮らす人々の生活についてブックレットを製作しています。

今年、シリーズ2冊目、江戸時代の当主内木彦七の日記を元に、当時の加子母村の生活を紹介した『山村の家・つきあいー江戸時代のがしも生活』



上:山守内木彦七武久さん/左:内木家

の公務内容と日々の生活が日を追って事細かに書き込まれています。1763年～1774年まで、田沼意次時代の12年間の日記が集中的に残されています。1年分の日記を解読すると400字詰原稿用紙で約450枚分！筆まめ！

彦七武久は、安永四年(1775年)6月7日に肺がんとと思われる病気で死去しています。この年の日記の最後の記事は、5月24日なので、没する13日前まで日記を書き続けていました。日記が残っている時期の年齢は、50代後半から60代前半と推測され、妻・長男夫婦と孫二人・次男・次女、1～2名の年季奉公人と同居していました。この彦七ファミリーと、近くに住む親類縁者、隣家の人々が、まるで「サザエさん」のような人間模様を繰り広げています。しかもノンフィクション。史実に基づいた当時の暮らし。次回から、ご紹介していきます。お楽しみに！【文責本間】

参考文献:『山村の家・つきあいー江戸時代のがしも生活』 太田尚宏著 徳川林政史研究所発行

